

2001 年度ハフマン賞受賞記念シンポジウム

徂徠センター長の ハフマン賞受賞を記念したシンポジウムが10月19日に大学構内の待兼山会館で開かれました。このシンポジウムは、応用研究やプロジェクト研究の重要性がことさらに強調される今日、大阪大大学院理学研究科で基礎科学領域で着実に成果を上げていることを内外にアピールすると共に、これを機に実験熱力学の今後について考えることを目的として、化学専攻物理化学講座の笠井俊夫、山口兆両教授の発案によって企画されたものです。笠井教授が世話人の労をとられ、センターから齋藤が実務のお手伝いにあたりました。

笠井教授の開会挨拶に続き、5件の講演が行われました。講演タイトルと講演者は次の通りです。「分子集合体における物性熱力学の展開」(齋藤一弥)、「化学結合論は終わったか」(長野八久)、「機能性セラミックスにおける材料熱力学の展開」(川路均、東京工業大学応用セラミックス研究所)、「界面で形成される2次元固体の物理化学」(稲葉章)、「機能性化合物の分子論的熱力学」(徂徠道夫)。これ以外に Huffman 賞を授与する側であるカロリメトリー会議の元会長 (Pluperfect Chair, 5名の会長団の1名として現役の役員) である J. Sipowska 教授 (ミシガン大学) が “Calorimetry: The Present Status and the Future Perspective” と題して化学熱力学分野の現状と日本の役割についてスピーチされました。

センターの生みの親である関集三名誉教授や元センター長である千原秀昭名誉教授もかけつけられて60名を越える参加者となり、一時は参加者が部屋に入りきらないことを心配するまでになりました。学外からも参加者がありました。講演時間超過が続出し、また講演後の議論もたいへん活発で、ゆったりとした時間配分であったにもかかわらず講演会の終了は40分ほども予定より遅くなりました。45分あるいは1時間という普段の学会等よりはるかに長い講演時間も参加者には「まとまった話が聞けた」と好評だったようです。

講演会の後は懇親会が開催されました。関名誉教授の挨拶、千原名誉教授による挨拶と乾杯で懇親会はスタートしました。参加者は様々な話題について懇談を楽しみ、また会場の一部では、講演会での議論が引き続きおこなわれました。基礎科学の重要性を強調した村田一郎名誉教授の挨拶で懇親会はお開きとなりました。

(齋藤一弥)

2001年 H. Huffman賞 受賞記念シンポジウム

2001年10月19日 (金)

講演会 (10:00-17:00)

- ・ 齋藤 一弥 (阪大院理)
「分子集合体における物性熱力学の展開」
- ・ 長野 八久 (阪大院理)
「化学結合論は終わったか」
- ・ J. Sipowska
(ミシガン大学, カロリメトリー会議前々会長)
“Calorimetry: The Present Status and
the Future Perspective”
- ・ 川路 均 (東工大応セラ研)
「機能性セラミックスにおける
材料熱力学の展開」
- ・ 稲葉 章 (阪大院理)
「界面で形成される2次元固体の物理化学」
- ・ 但徠 道夫
(阪大院理, 2001年ハフマン賞受賞者)
「機能性化合物の分子論的熱力学」

懇親会 (17:30-19:30)

(聴講無料, 懇親会費5,000円)

大阪大学豊中キャンパス 待兼山会館

(阪急宝塚線石橋駅より徒歩15分,
または大阪モノレール柴原駅より徒歩7分)



問い合わせ

世話人: 豊井俊夫

(分子研・阪大院理化学専攻)

tel: 06-6850-5400, mail: tkasai@chem.sci.osaka-u.ac.jp

事務局: 齋藤一弥 (阪大院理分子熱力学研究センター)

tel: 06-6850-5525, mail: kazuya@chem.sci.osaka-u.ac.jp